

表層混合処理工（浅層・中層混合処理工）九州フィールド対象NETIS技術等選定一覧

工法比較表対象技術 新規対象技術（調査中） 削除技術

令和3年11月現在

※「活用状況（本省）」欄にNETIS掲載期間内の大まかな活用件数を記す。☆=500件以上、◎=100件以上、○=50件以上、□=20件以上

（注）NETISホームページへ移動しない場合は、ファイルをダウンロードしてご使用ください。

整理番号	技術名	NETIS番号	A V G	アブストラクト	区分	分類1 Lv.1	分類2 Lv.2	分類3 Lv.3	分類4 Lv.4	技術の位置づけ	活用 効果 評価	活用 状況 (本省)	掲載期間 終了技術 (終了時期)	生産供給体制(機械保有台数等)	備考	NETIS HP リンク先(注)
1	WILL工法(スラリー振動攪拌工)	GS-090004	VG	2タイプのリボンスクリー型攪拌翼とブレードプレートとを使い分けることにより、軟弱な粘性土地盤はもとより、N値40までの砂質土地盤に固化材を注入しながら振動攪拌混合し、安定した改良体を形成する工法である。	工法	共通工	軟弱地盤処理工	固結工		[設計比較] (2014.5.16~) [活用促進] (2018.3.19~)	有	○ (R2年3月)	0.8m3クラス九州内(福岡):10台、九州外(東京都):30台、1.4m機九州内(福岡):6台、九州外(東京都):24台			
2	STB-MC工法	KT-100020	VG	本技術は、セメント系固化材を原位置で飛散防止用加工して用いる浅層地盤改良工法で、従来は工場製品の発塵抑制型固化材を用いた浅層地盤改良工法により対応していた。本技術の活用により、広範囲な改良材で飛散防止ができるので施工コストの削減が図れる。	工法	土工	路床改良工				有	□ (R3年3月)	MC製造機:九州内0台、九州外(岐阜、埼玉):4台、スタビライザ:九州内(福岡)5台、九州外(大阪、岐阜、埼玉):67台、散布車:九州内(福岡)2台、九州外(大阪、岐阜、埼玉):24台			
3	エスミックスラリー工法	KT-140015	VR	本技術は、バックホウに取り付けた特殊攪拌装置からセメントスラリーを吐出させ攪拌する軟弱地盤処理工法である。従来は深層混合処理機を使用したスラリー攪拌工法で対応していた。本技術の活用により、杭芯セット毎機械移動も不要、狭路部施工も可能となり施工性が向上する。	工法	共通工	軟弱地盤処理工	固結工			有			管理装置九州内(福岡市):2台、九州外(各支店):14台		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-140015&20
4	パワーブレンダー工法(スラリー噴射方式)	GB-980012	VG	トレンチャー式攪拌機を改良機本体に装着して改良材(セメント系固化材等)を対象地盤中にスラリー噴射しながら攪拌混合する工法です。改良深度は最大13m程度(実績13.9m)可能です。重機足場は仮設鉄板程度で済み、改良機本体は改造型バックホウなので転倒の心配も無い。	工法	共通工	軟弱地盤処理工	固結工		[H23推奨] [設計比較]	有	☆ (H29年4月)	○ (H29年4月)	0.8m機九州内(大宰府):2台、九州外(全国):28台、1.4m機九州内(大宰府)九州内:3台、九州外(全国):24台、1.9m機(大宰府):2台、九州外(全国):25台、1.9m機ツープースーム(大宰府)九州内:1台、九州外(全国):6台		
5	ツイン・ブレードミキシング工法	KT-050086	VG	本技術は、縦型回転攪拌装置を用いた中層混合処理工法で、従来は、スラリー攪拌工(2軸施工)で対応していた。本技術の活用により、1セットあたりの改良面積が増加して、工程が短縮し経済性が向上する。	工法	共通工	軟弱地盤処理工	固結工		[H24準推奨] [設計比較]	有	○ (H29年4月)	○ (H29年4月)	20t機九州内:1台(佐賀県)、九州外(千葉県):15台、45t機九州内:0台、九州外(千葉県):12台、45t機(特殊仕様)九州内:0台、九州外(千葉県):12台、48t機(特殊仕様)九州内:0台、九州外(千葉県):3台		
6	SCM工法	SK-020004	VG	あらゆる現場条件に適応できる浅層・中層地盤改良工法です。	工法	共通工	軟弱地盤処理工	固結工		[H22準推奨] [活用促進]	有	○ (H29年4月)	○ (H29年4月)	パケットミキシング 九州内:0台、九州外(宇都宮等):5台		
7	パワーブレンダー工法(粉体噴射方式)	GB-980019	VG	トレンチャー式攪拌機を改良機本体に装着して改良材(セメント系固化材等)を対象地盤中に粉体圧送しながら攪拌混合する工法です。改良深度は6m程度まで可能です。重機足場は仮設鉄板程度で済み、改良機本体は改造型バックホウなので転倒の心配も無い。	工法	共通工	軟弱地盤処理工	固結工		[H26推奨] [設計比較]	有		○ (H29年4月)	0.8m機九州内:0台、九州外(中部):1台、1.4m機九州内:0台、九州外(関東):2台		
8	超軟弱土固化処理工法 マッドミキサーM-II型	GS-980054	VG	バックホウに超ロングブームアームと特殊攪拌機を装備し、軟弱土と固化材を連続的に機械混合し、土と固化材を化学反応させ、土質性状を安定したものにすると共に、強度を高める工法です。	工法	共通工	軟弱地盤処理工	表面安定処理工		[活用促進]	有	○ (H29年4月)	○ (H29年4月)	M-II型攪拌混合機 九州内(佐賀県):20台、九州外(全国):0台		
9	スタビミキサー工法	SK-010014	VG	本技術はトレンチャー式攪拌機により軟弱地盤を上下攪拌し改良体を築造する工法で、従来はバックホウ混合・コラム改良等で対応していた。本技術の活用によりバックホウ混合では対応できない深さ・コラム改良のように大型重機の搬入の出来ない工事での適用が期待出来る。	工法	共通工	軟弱地盤処理工	固結工		[活用促進]	有	○ (H29年4月)	○ (H29年4月)	3m機九州内:0台、九州外(広島県):3台、5m機九州内:0台、九州外(広島県):6台、7m機九州内:0台、九州外(広島県):3台		
10	ロータリースタビライザー	HK-070016	VG	この攪拌機は、対象土に粉体に散布された添加材を0.3~1.2m程度(粉体式)の深さまで均一に攪拌混合し、所定の強度を得ることができる。	機械	共通工	軟弱地盤処理工	その他		[設計比較] [活用促進]	有	○ (H30年4月)	○ (H30年4月)	ロータリースタビライザー 九州内:0台、九州外(北海道):10台		
11	エルニード工法	SK-180009	A	本技術は、バックホウによる特殊バケットを用いたブロック状の改良体を築造する地盤改良工法で、従来は、小型改良機による柱状の改良に対応していた。本技術の活用により、地下水が高い地盤や玉石を含む土質や礫層も均一な改良体を築造可能となります。	工法	共通工	深層混合処理工	固結工	その他					-		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=SK-180009&20
12	パワーブレンダー工法(横行施工)	GS-180038	A	中層領域の地盤改良においてトレンチャー式地盤改良機に角度変換機能付攪拌機を装着する事で、従来、施工出来なかった任意角度による横行走行連続施工が可能となり、近接箇所や狭路箇所での施工性が向上し適用範囲が拡大した。	工法	共通工	軟弱地盤処理工	固結工						0.8m機:九州内(福岡)1台、九州外(愛知・千葉)7台、1.4m機:九州内(福岡)1台、九州外(愛知・千葉)3台、1.9m機:九州内(福岡)1台、九州外(愛知・千葉)8台、1.9m機ツープースーム:九州内(福岡)1台、九州外(愛知・千葉)5台		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=GS-180038&20
13	ICT対応型スラリー振動攪拌工(WILL-工法)	GS-210018	A	本工法は中層混合処理工に関する技術である。ICTを活用した平面誘導・平面管理により位置出し作業や出来形検査の省力化が可能で、特殊攪拌翼により均一性の高い良質な改良体(最大深度13m)の構築および最大改良深度8mにおいてN値40程度の砂・砂礫地盤への適応が可能である。	工法	共通工	軟弱地盤処理工	固結工						-		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=GS-210018&20